

No.	懇話会での意見等	発言者
1	<p>(1)先進地ヒアリング 印西地区環境整備事業組合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (地域振興の) 計画検討において住民側の意見を最大限に尊重しつつ、必要に応じて組合からも積極的に代案を示してきた。 ・ 株式会社(注)の設立は、地元運営すべきという意見から、スタートした。(注) 地域振興を目的に町内会が出資し設立した法人。資料1-3P2参照。 <p>Q (焼却)施設の建設予定地は新規の場所か。 A 新規の場所で、公募した用地の中の一つ。(以下Aは組合)</p> <p>Q 会社事務所、事務員、資料作成はどのようにしたのか。 A 事務所は個人所有の物置を借りて設置した。アルバイトの事務員を雇い、会社運営の資料作成や納税をしている。</p> <p>Q 地域振興を含めて、整備事業はごみの担当部署が担当しているか。 A 組合は、ごみ処理担当だが、構成市町の総合計画や都市計画を把握した上で計画検討し、関係部署とも定期的に打ち合わせしている。</p> <p>Q 会社や役員等について教えてほしい。 A 会社は、指定管理者になることを目的として設立。社長一人の会社で、(社長は)区会(町内会等)住民から選任。 現在は施設用地の管理業務(草刈り等)の受注により、運営を行っている。地域からアルバイトを募集し草刈り等を実施している。</p> <p>Q 住民参加の事業が進んだ理由について教えてほしい。 A 地域消滅の危機感と、清掃工場整備を活用した地域活性化への期待感との2点。また、委員の中で、特に献身的に(住民間の)内部調整を図った3人の地元の方が大きな役割を果たした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 資料1-1P7①「株式会社設立に至る経緯」は、とても先進的な事例で、地域の取組の参考になると思う。 <p>Q 経営のシミュレーション等、会社設立前に議論はあったのか。 A 現段階で、しっかりと経営シミュレーションを行っているわけではない。資料1-3P8記載のとおり説明、現状ではこの経営環境・企画・内容でいけるだろうと捉えている。具体的には今後決めるという状況。 <p>(2)先進地ヒアリング 川越市</p> <p>○ 焼却処理方式の選定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国の補助を受けるため(当時は)灰溶融の設置義務があった。 ・ 処理方式は全ての方式を対象に公募し、技術審査に合格した「ガス化溶融方式」と「ストーカ+灰溶融方式」で競争入札を行った。 ・ 処理方式選定の透明性の確保、競争性の担保ができるが、一つの方式に絞るのと比べて膨大な事務量となるため人員の確保が必須。 <p>Q 水辺ゾーンの水源は。焼却施設の排水はどのようにしているか。 A 公園内に水路があり、水源として利用する計画。また地下水位が高いの</p> </p>	<p>印西地区環境整備事業組合</p> <p>地域住民</p> <p>有識者</p> <p>川越市</p> <p>地域住民</p>

No.	懇話会での意見等	発言者
	<p>で、利用しようとしている。排水は焼却室の冷却に利用。(以下Aは市)</p> <p>Q ピコア(川越市余熱利用施設)の利用者が倍増した理由は何か。</p> <p>A PFI事業により民間事業者のノウハウを活かした集客や、渋滞が無く広い駐車場、料金設定が低廉なことによるところが大きい。</p> <p>Q PFI終了時の大規模改修はどのように考えているか。</p> <p>A PFI契約により、終了時は改修後、市へ引き渡す約束。</p> <p>Q 熱利用の形態はどのようなか。</p> <p>A 高温水を熱交換している。</p> <p>Q 地域のニーズをどうくみ上げたのか。地域への配慮という観点で雇用や還元はどのように行ったのか。</p> <p>A 地元要望は自治会長などから意見聴取した。PFI事業の中で、地元の方を多く採用することとしている。</p> <p>Q 反対意見や苦情の状況はどうだったか。</p> <p>A 建設当時はダイオキシンが心配されるといった意見があった。その中で、周辺地域に対しては、可能な限り説明を行った。</p> <p>施設稼働後は、年2回の生活環境保全協議会で状況報告や懸案事項を協議し、地域との信頼関係を築けていると感じている。</p>	有識者
2	<p>地域振興キーワードの整理(中間報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然や緑地をキーワードとして欲しい。焼却施設から排出されるCO₂をカバーし、カーボンニュートラルを進めるためにも必要と思う。 ・ ヒアリングは参考になった。各地で前提条件が違うことが分かった。 ・ 盛岡広域8市町として10年後にスタートする施設、20・50年後の社会を想定し、機能性・運営・利用を考えたデザインが必要と思う。 ・ 熱エネルギーを活用し、アーバンスポーツ・ルーラルスポーツが得意な日本人、子供達の身体能力を活かすような場所があると良いと思う。 ・ 推進協でこれまで「ふれあいと賑わいのあるまちづくり」をテーマにしてきたので、これもキーワードとして取り入れて欲しい。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 民間連携・民間発想・地域の関わり・行政のコーディネート力をさらに真剣度をもって充実させていくステップを進めていって欲しい。 ・ ここの立地について、地域事業者と連携した熱エネルギーの徹底した利用と脱炭素を進めることで、先進的で持続可能な地域を作っていくようにまとめ上げていくと良いと思う。 	<p>地域住民</p> <p>有識者</p>
3	<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 来年度からプラスチックの回収が国から定められる。 ・ 町田市の焼却炉は、生ごみをバイオガス化している。 ・ 脱炭素に向けて、いくらかでも二酸化炭素を出さないようにする仕組みを認識・勉強する機会があっても良いのではないかと。 	地域住民